

健康登山14:周辺の山08(大尾山・水井山・横高山)

コース	大原バス停 1.2km/30 山 1.7km/42 高山 0.2km/11	音無滝 1.2km/48 小野山 1.0km/22 鞍部 1.6km/56	大尾山 0.5km/13 仰木峠 1.4km/46 登山口バス停	鉄塔往復・大尾 水井山 0.6km/14 横
水平距離	9.4km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	13.4km			
累計高低差	登り885m、下り948m			
標準歩行時間	4:43			
実績歩行時間	5:30			



山行報告

山行日 2006・7・6(木) 天候 曇時々雨 参加者 5名

大原バス停9:04 音無滝9:30 大尾山10:33 鉄塔10:55 大尾山11:02 三千院分岐
行動 (昼食)11:30~12:15 小野山12:26 仰木峠12:52 水井山13:40 横高山14:17
鞍部14:30 登山口バス停15:38

記録

前回は東海自然歩道の比叡山コースとして大原から比叡山のお堂巡りをしながら西大津駅まで歩いた。比叡山周辺の山コースは暑い季節なので2回に分けて行うことにした。
今回はポピュラーなコースだが比叡山系最北の大尾山、水井山、横高山の三山を歩いた。
梅雨らしい空模様の中、集合場所の大原バス停に5人が集まった。紫陽花の花がきれいな三千院の門前町を通り抜け音無の滝で小休止、水量が多く迫力があった。
ここから山道になるが谷迫川沿いの登山道が冠水していて渡渉を繰り返しながら登った。2万5千地図では430mから尾根に取付くことになっているが、実際の道はさらに奥まで谷を詰め550m付近から尾根道になる。
山頂付近は霧雨だったので大尾山で全員雨具のズボンを着用した。霧で景色が見えないことはわかっていたが出發前に250m北にある関電の鉄塔(ビューポイント)まで往復した。
大尾山から仰木峠へ向ったが662m地点を過ぎた辺りから500m程は稜線が林道になっている。
小野山の手前で再び昔の山道になり30分ほど歩くと仰木峠に着く。
仰木峠で一旦東海自然歩道と合流するが、すぐに横川中堂へ向う自然歩道と別れて水井山と横高山の稜線を忠実にたどることになる。このコースの最高地点794.1mの水井山と二つ目のピーク横高山は比叡山北方尾根を特徴づけるピークである。
横高山からの急傾斜を下った鞍部が峠でここから登山口へ一気に下った。
大尾山周辺でヒルを見かけたが、下山後確認するとやはり数人にヒルがついていた。比叡山系まで分布が広がっていることになる。要注意・要対策。
最近の2万5千地図では大尾山が梶山に変更されている。Hさんによると梶が大尾とミスプリントされていたのを修正されたとのこと。そう言われると周辺には梶性の人が多い。

周辺の山 (大原~大尾山・水井山・横高山~登山口)



大原を出前
9:08



三千院の紫陽花
9:17



音無滝にて
9:29



谷迫川渡渉
9:35



大尾山にて
10:48



仰木峠へ向う
12:45



水井山の登り
13:32



水井山
13:40



横高山にて
14:17



鞍部下山口
14:30

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：大原～大尾山～水井山～横高山～登山口）

- ◎ 三千院 : 1871年明治になったの公称で、それまでは円徳院、円融院と号し梶井門跡、梨木房とも呼ばれていた。最澄が叡山東塔南谷の梨の木の下に円融房を建立したのが起源。また井戸（加持井）が有り梶井と称する、1118年最雲法親王が梶井宮に入室され梨木の正統を継がれて皇族出身者が従事する宮門跡となる。梶井宮は東坂本にあったが火災等で御所の東現府立病院あたりに移り、その後大原魚山の政所（現三千院）に移り現在に至る。東山栗田口の青蓮院、東山七条の妙法院とて天台三門跡の一つである。
- ◎ 往生極楽院 : 三千院の歴史の源とも言われる。久安4年（1148）高松中納言藤原美さねひららの妻、貞如尼が堂を建てたことが近年脇侍胎内銘より判った。（これまで恵心僧都が父母の菩提の為、姉安養尼と共に建立したとも伝えられていた）堂内は金色の来迎阿弥陀三尊像が安置されている。貞如尼はひたすら阿弥陀浄土への引摂を願ったとか、8年後、都では保元の乱が起こる。
- ◎ 朱雀門 : 往生極楽院の正門であった南門で風水朱雀の朱を施してある。周辺石垣は坂本の穴太積と同じ牛蒡積である。
- ◎ 勝林院 : 文治2年（1186）の秋、既成教団当代宗教界の碩せきがく学たちが、浄土宗を開創した法然を勝林院に呼びつるし上げの法談（100日間の宗論）を開いた、有名な大原問答の舞台である、後に天台座主になった顕真、笠置寺の解脱上人貞慶や東大寺の重ちゅうげん源ら名僧が集まり法然は質問に答えて弥陀の本願を解き300人の会衆を感嘆させたという。
（碩学たち：納めた学問の広く深い人たち）
- ◎ 熊谷鉈捨ての藪 : 法然は“酒を飲み、肉を食べ、女性に触れても念仏を唱えることによって仏になれる”と説き教えが簡単で労力や貧富の差無く平等に救われるとあって教えは広がり、熊谷直実、畠山重忠の関東武者たちや関白九条兼実などの貴族や盗賊まで及んだという。蓮生坊熊谷直実は大原問答でもし師の法然が破れたら法敵どもを討ち果たそうと鉈を隠し持って従ったが法然に見つかりその愚を諭されて鉈を捨てた。勝林院前の津川に掛かる橋の付近にこの伝承が残っている。
- ◎ 来迎院 : 慈覚大師円仁が入唐したとき魚山で声しょうみょう明を習い帰国後大原の地が魚山に似ているので大原の魚山と名づけ（千有余年前）来迎院を天台声明の道場とした。
- ◎ 魚山 : 中国天台山の支峰の名、声明発祥の地とされる中国の霊山。

- ◎ 良忍の墓：3mの三重の石塔（国重文、鎌倉）来迎院の北東近く津川の対岸に有る。
良忍は融通念仏の開祖である、晩年大原に隠棲して^{しょうみょうぼんばい}声明梵唄を聴き、往生を願って毎日念仏を六万遍唱える修行を昼夜行った。融通念仏とは“、衆人の唱える念仏は我に通じ一人の行を以って衆人の行を以って一人の行とする”というものである。良忍は衰えた来迎院を再興している。
- ◎ 音無の滝：落差 15m、来迎院から 300m津川の上流、呂川もこの滝を水源にしている
声明の声を妨げるとして良忍が水音を封じたからこの名がついた。
朝夕に泣く音立つる小野山は 絶えぬ涙や音無の滝 源氏物語「夕霧」
- ◎ 声明：仏教儀式の際の一種の音楽、仏を讃えて唄う仏教音楽、後世の邦楽の源になっている。三千院周辺を流れる^{りよせん}呂川、^{りつせん}津川は共に声明の音階より名づけられた。
「呂律が回らない」の語源はこの呂川、津川からきている。
- ◎ 大尾山：大津市南庄小字の梶山を、印刷で木尾山と誤植、誤りを重ねて大尾山（だいびざん、だいおさん等々）になる。地元南庄では梶山と呼ぶ。最近の国土地理院では梶山に改まっている。大原から南庄越えの古道でもある。南庄は源氏物語のモデル^{みなもとのおる}源融の荘園があった所、現在は融神社があり南庄越えの起点でもある。
- ◎ ^{どうぜんやま}童髯山：大尾山の別名。（二等三角点がある）登山者だけが使用する呼び名、京都地元の樵から聞き取った呼び名から昭和9年ごろ漢字が当てはめられた（音無の滝の主流となる谷名はドーゼン谷）他に三の滝山、北谷から北谷山とも言うが知名度は低い。
- ◎ 小野山：P670 地点、音無の滝がある山で地図北山1に、大原魚山から東へ呂川のバクチ谷から直登ルートの破線が記載されている。幻の蛇“つちのこ”が棲んでいるという話もあった。（別名大原山）歌枕の大原山は特定でなく大原周辺の山をさす。
- ◎ 水井山：西側の谷の名前水井谷から付けられた呼び名。釈迦岳、阿弥陀峰ともいう。
- ◎ 横高山：釈迦ヶ岳、（小比叡ノ峰、波母山）ともいう。玉体杉からとの鞍部である峰辻にせりあい地蔵が祀ってある、この北に二宮釣垂岩があり、この地主権現の本地仏が釈迦如来であるためから、釈迦ヶ岳の由来がきている。
- ◎ べんてつ千手観音：〈^{はしだし}長谷出〉登山口より10分ぐらいのところ黒谷青竜寺道と横高山への登山道分岐に祀られている。
- ◎ 登山口：^{はしだし}長谷出し登山口は現在京都バス登山口バス停にあたり、明治40年に発表された夏目漱石の「虞美人草」の書き出しは、この登り口からの叡山登山情景で始まる。

当時は黒谷青竜寺経由で叡山へ行くコースが一般的であったらしい。

◎ 大原十名山：大原里づくり協会が選定した大原の里の10名山。

- ①水井山 △794.1m 尾根道から寂光院方面が望める
- ②大尾山 △681.4m 〈梶山〉琵琶湖が望める
- ③瓢箪崩山△532.4m 瓢箪を寝かせたような形、叡山や秋元町方面が望める
- ④金毘羅山△572.8m 古くは雨乞いの山、京都市街が望める（大原三山）
- ⑤翠黛山 △577m 平家物語に登場する山、展望なし（大原三山）
- ⑥焼杉山 △717.6m 展望なし（大原三山の最高峰）
- ⑦天ヶ岳 △788m 展望なし、花の頃小出石からのシャクナゲ尾根は見ごたえ有り
- ⑧ナッチョ△812.6m 〈天ヶ森、高谷山〉高野川、安曇川の分水嶺、琵琶湖が望める
- ⑨皆子山 △971.5m 比良山系が望める、4月まで残雪あり（京都府最高峰）
- ⑩峰床山 △970.0m 360度展望、八丁平高層湿原がある（京都府二番目に高い山）